

○11 番（宮原隆昌君）

おはようございます。11 番宮原です。

小豆島中央病院の安定経営について質問いたします。

まず、小豆島中央病院企業団の経営状況については、以前に、先輩議員が令和 4 年、令和 7 年と一般質問されて、詳しく説明されておりますが、現状を踏まえ、再度お聞きしたいと思います。

小豆島中央病院は、コロナ禍においては空床保証を含むコロナ補助金等で一時期、黒字となっておりましたが、コロナ後の令和 6 年度からは赤字経営となっています。今後も少子高齢化・人口減少・医師・看護師確保の難しさ・患者数の減少・人件費や物価・光熱費等の上昇という複合的な課題により、さらに経営が非常に厳しい状況になることが予想されます。

全国的に、自治体が設置する公立病院の多くが赤字状態で、2024 年度では赤字の割合が 86%という報告もあります。

そのような中で、年々増加している土庄町一般会計予算から小豆島中央病院への負担金等は、令和 4 年度 約 2 億 7300 万円、令和 5 年度 約 2 億 7400 万円、令和 6 年度 約 3 億 400 万円となっており、今後も最大限注意すべきであると考えます。

小豆島中央病院の赤字解消・経営改善を図るためには、小豆島中央病院の努力は当然でありますし、島の実情に応じた対策が必要であると考えます。

小豆島中央病院が地域の命綱として、安定的な経営を持続するために、土庄町としての対策、そして町民として何が出来るのか、しなければならないのか質問いたします。

○議長（濱野良一君）

健康福祉課長 渡辺志保君。

○健康福祉課長（渡辺志保君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

小豆島中央病院は、小豆医療圏域唯一の二次救急医療機能を持つ地域の中核病院であり、その役割は、たいへん重要かつ不可欠なものであると深く認識しております。

しかしながら、宮原議員がおっしゃるとおり、人口減少や慢性的な医療職の不足、さらには近年の物価高による医療材料費の高騰等により、厳しい経営状況が続いております。

小豆島中央病院は、地方公営企業であることから独立採算制が原則ですが、一方で、公立病院として小豆島中央病院が担っている、救急医療や小児医療・周産期医療などの不採算医療のほか、人材確保のために必要となる余分な経費などについては、公による支援が必要で、こうした経費については、地方公営

企業法の繰出基準等に基づき、土庄町と小豆島町の 2 町で負担金や補助金により経営支援しているところであります。

土庄町といたしましては、必要な支援については、今後も継続していくことはもちろんでございますが、地方公営企業として求められる経営努力については、病院に対し、しっかりと求めていかなければならないと考えております。

小豆島中央病院におきましても、「経営強化プラン」を策定し、今年度は、看護師数に見合った大規模な病棟再編を行い、少しでも多くの入院患者を受け入れるよう編成替えを行うとともに、放射線科の常勤医師の確保により、新たに診療報酬上の画像診断管理加算を取得したほか、年度内には、3 階病棟を、より高い入院料の算定が可能な地域包括医療病棟とする予定で準備するなど、経営安定化に向けた積極的な取り組みを行っております。

病院と行政が連携して小豆島中央病院の諸課題を検討していくため、両町の町長及び病院管理者とで組織された「開設者協議会」や、両町の副町長以下、関係課長と、病院の管理部門や看護部門の職員などが参加する「構成町連絡調整会議」において、情報共有や協議を行っているところでありますが、これに加え、新たに、持続可能な病院経営について、中期的な視点から協議していくための懇談会も設置することとしております。

こうした場を通じて、情報共有を密にするとともに、両町と小豆島中央病院の連携を強化し、小豆医療圏域における医療提供体制の維持・確保に取り組んでまいりたいと考えておりますが、そのためには、住民の皆さまのご理解、ご協力も不可欠であります。

住民の皆さまにおかれましては、上手に病院を利用していただくということが、安定的な医療提供体制を維持し、ひいては病院経営の安定化にもつながってまいります。具体的には、入院や救急が必要な二次救急医療において、積極的に小豆島中央病院を利用していただくことや、緊急性のない診療時間外の受診を控える、あるいは急病やケガで受診を迷ったときには、相談先として香川県救急電話相談などを活用するといったことでございます。

特に、緊急性のない診療時間外の受診は、医師、看護師などの負担を増やし、緊急度が高い方への対応に支障をきたす可能性があります。町といたしましても、ホームページ等で注意を促しているほか、昨年度は、小豆島中央病院をはじめ、香川県、香川労働局、両町が共同で、適正受診に関する街頭啓発活動を行い、チラシを配布いたしました。今後も関係機関と連携・協力しながら、積極的に機会をとらえて周知啓発に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○11 番（宮原隆昌君）

はい。健康福祉課長から詳しく答弁していただきました。

小豆島中央病院は、小豆島島民の生活と健康を守るための公共インフラであり、その維持、強化は持続可能な町を目指す土庄町にとっては不可欠です。

今後とも小豆島中央病院が、かかりつけ医との連携や救急医療の提供、災害・感染症対策の拠点として存続し、土庄町民が住み慣れた地域で必要な医療を受けられる体制が維持されていかなければならないと思います。

最後に私自身も小豆島中央病院企業団議会の議員として、経営安定に向けて尽力してまいりたいと思います。以上で質問を終わります。